おはらいてうの会ニュース

発　行
平塚らいてうの会
〒151-0051
東京都渋谷区
千駄ケ谷
4-11-9-303
TEL・FAX
03-3401-6383

今、らいてうが新しい
―第10回総会にあたって

平塚らいてうの会会長・米田佐代子

三年間のみのり

09年、らいてうの家は4月25日に開館します。お金も人手も見通しがないまま四年目を迎えましたが、何とかやってこられたのはみなさまのご協力の賜物と心から御礼申し上げます。

この三年間の成果は、第一に「家」に全国からのべ7千人を越える訪問者があり、無償のボランティアを含めるとのべ1万人以上が「家」にかかわってくださったことです。第二に地域とむすびついた「家」の活動の発展です。05年度から三年間県の助成を受けて植樹などに取り組み、08年度からは上田市の助成で宝井琴桜さん講談会や中澤きみ子さんコンサートのほか、羽田澄子さんや岸田衿子さん・古矢一穂さんもお招きし、今後の植樹にも県からの助成が見込まれるなど自治体の支援もひろがりました。第三にらいてうの憲法九条への思いや家族への愛などを再発見する資料もみつかり、「今、らいてうが新しい」と確信できたことです。（ぜひ『紀要』をごらんください）。

らいてうの家は、全国に平和と協同のねがいを発信するやすらぎと学びの場として成長するとともに、自然豊かな地域に根をおろした「地域コミュニティ」の意味も持つようになりました。今年は新しい企画として5月と9月のイベントにあわせて上田駅から「家」まで送迎バスをチャーター、8月には「あずまや高原懇談会」も計画中です。

毎年好評の新展示は「らいてうと平和」がテーマです。

運営は赤字です

しかし運営面では、「会」の会計は毎年百五〇万円を超える赤字です。「家」への関心は高まっていますが来館者は減少傾向にあり、事業も助成金でようやくできる状況です。入会者も退会者をカバーするのがやっとです。けれども、「後ろを振り向かない」らいてうに学び、らいてうのねがいを活かす活動をすすめましょう。

4月の総会で議論していただく主な課題は以下です。☆手狭な「会」事務所の移転と上田市内の連絡事務所設置について。☆「家」の活動を「らいてうの家運営委員会」中心に自治体の助成も活用、地域と連携してすすめる。☆通常の開館日は土日月とし、平日の団体訪問を予約制で積極的に受けつける。☆東京での講座や母親大会にとりくむほか、各地域での「出前講座」の相談に応じる。☆二年後に迎える開館五周年と『『青鞜』創刊百年」記念事業の計画。☆財政確立のため、会員拡大とともに年間を通じて「寄付」をお願いする。

いつでもどこからでも、どうぞご寄付を！

「家」建設後も多くの方からご寄付があり、昨年も大口を含むご寄付をいただきました（入館時維持寄付以外に）。きびしい経済情勢ですが、もちろん金額は問いません。今こそ「らいてうのこころざし」を育てるために、「思い立ったときに・いつでも・いくらでも」のご寄付をお願い申し上げます。

2009年　らいてう忌

初夏の茅ヶ崎へでかけませんか…

らいてう没後38年、らいてうのお墓がある「春秋苑」、茅ヶ崎の「らいてうの碑」、『青鞜』の編集会議を開き、奥村博史とはじめて出会ったゆかりの南湖院跡などをたずねる日帰りバス旅行です。

昼食は小津安二郎映画監督が定宿とした、登録有形文化財答申の「茅ヶ崎館」で地元の食材にこだわった〝昼のご膳〟です。

日時　5月21日㈭午前8時45分新宿西口集合
経路　新宿→小田急生田駅→春秋苑→らいてうの碑→茅ヶ崎館→南湖院→帰路
参加費　8、800円
＊お申し込みはらいてうの会へ。（定員30名）

らいてう講座
子どもたちの今、そして未来
★ケータイと子どもたち
★らいてうさんの子育て

3月14日、「らいてう講座」を開催しました。

大きなテーマは「子どもたちの今、そして未来」で、講座は2本。

一つは、いま、「子ども社会の『問題』」として文科省でもあれこれ言っている（あなたに言われたくないけれど）、つまり私たちの問題でもある、「ケータイと子どもたち」、講師は横浜市立大学の中西新太郎さん。

二つ目は、らいてう研究家で、「らいてうの会副会長」の折井美耶子さんの講師で、「らいてうさんの子育て」。

中西さんのお話は、内容が多くてとても要約はむずかしいのですが、いまの子どもたちにとって、私たち大人（少なくとも私は）が〝持ち運びのできる電話〟として便利に使っているケータイからは想像もできない「物」「者」になっているということです。

この日聞いたケータイ用語を並べてみました。「ミクシ、モバゲー、グリー、ヤフオク、デコメ、ゴルゴンゾーラ、ニコ動、お弁当サイト、初音ミク・・・」それぞれ違う機能をもっています。ケータイがつくりだすバーチャル世界。「友だちづくり」まで商売にしてしまう社会とそのなかで育っていく子ども、そして私たちの未来についても考えさせられました。「私は使わないから関係ない」ではすまされない、怖い事態にまでならないとはいえない、そんな感想をもったのでした。

△　△　△

折井さんの「らいてうさんの子育て」のお話はとても興味を感じました。らいてうさんのはじめての出産は1915年で29歳、次は17年で31歳です。今では普通ですが、あの時代ではかなりな「高齢出産」だと思います。

らいてうさんにとって、「現在の自分に一番大切なことは、自分の内生活を築くこと」でした。その考えを基調にもちつつ、子育てをすることによって、「人間」「いのち」「平和」にたいして、いっそう思索を深めた、らいてうさんを知ることができたと思いました。

そして、らいてうさんは、「現代の人以上にすすんだ人」だったと感銘しました。今回の講座はさらにふかめたい内容だった、というのが私の感想です。

（木村　康子）

スノーシューで雪の森の自然を

2月なのにあずまや高原は霙、地球の温暖化を地で行く天候に実施が危ぶまれましたが、現在でなければ体験できない自然がある、楽しみましょうと23日の朝出発。

夜のうちに降った新雪が足に、心地よく、夏には熊笹に覆われて、足を踏み入れられない斜面が白く広々と広がり、インストラクターの方の丁寧なレクチャーで、コナラの枯葉、キツツキの舌の構造、トリカブトの花の咲く所など色々な発見をし、自然への理解を深めることができました。

ホテルに戻っての温泉は最高、ゆったりとできたのが好評でした。スノーシューはパスして温泉と友との語らいを楽しむ人もあり、楽しみ方はいろいろ。夜の交流会では、地元の熊崎さんが来てくださり、「らいてうの森」のこれからについて語り合いました。また、上田の「食のまちづくりの会」の試食会に参加して美味しいお昼をご馳走になったりと、またしても予定外のうれしいことといっぱいの旅となりました。

らいてうの家4月オープン　今年も魅力いっぱいのイベント

恒例　あずまや高原春祭りに行こう！

―今年は送迎バスがあります

「家」オープンとともに、さっそくらいてうの家の「春祭り」です。植樹、薬草園散策、アトラクション、野点、それに地元の山菜や薬草のおいしいお弁当などを楽しんでください。今年は上田から送迎バスを出しますので、気軽にどうぞ。

日時　5月31日（日）森のめぐみ講座＝植樹と春祭り（雨天決行）

雨のときはらいてうの家と薬草園ログハウスを開放します。

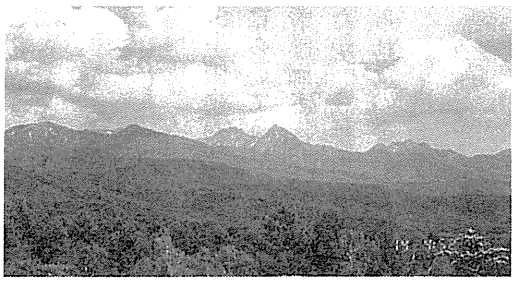
〈送迎バス〉行き（上田駅より）

午前9時発11時発の2便予定

帰り（らいてうの家より）

午後2時半発・4時半発の2便予定

往復とも市内途中停車します。詳しくはチラシを。



菅平湿原バードウォッチング

野鳥の会の専門家の案内で高原の鳥たちとの出会いをどうぞお楽しみください。

日時　6月1日（月）午前8時―12時

参加費・宿泊費等は事務局までお問い合わせください。案内をさし上げます。

らいてう講座は展示にあわせて6月20日

今年の特別展示「らいてうと平和」にちなんだらいてう講座。『婦人通信』6月号参照。

テーマ「らいてうと『九条元祖』の男性群像」

講　師　米田佐代子（らいてうの家館長）

と　き　2009年6月21日（日）

午後1時半より

ところ　らいてうの家

2009年「らいてうの家」イベントのお知らせ

（今年のオープンは4月25日（土）です！）

今決まっているのは、次のとおりです。5月31日と9月27日はバス送迎の予定。

5月31日(日)～6月1日(月)森のめぐみ講座

6月20日(土)らいてう講座

7月5日(日)子どもまつり

7月12日(日)戦争体験を語る会

8月9日(日)あずまや高原地域懇談会

8月23日(日)佐藤真子さんらいてうをうたう

9月5日(土)らいてう講座

9月27日(日)森のめぐみ講座（笹刈り、キノコ鍋、高原散策）

「高原の美しさすがすがしさ」

―博史さんのハガキ発見！

あずまや高原の土地を入手するとき、奥村博史さんが現地を訪れたことはらいてうの日記でわかっていますが、このほど半世紀ぶりに博史さんが現地から出したらいてう宛てのハガキが見つかりました。「高原の美しさすがすがしさをまんきつ、鬼百合にしろ、りんどう、なでしこ、あざみ、皆色がすばらしく、上がってくるときうぐひすがしきりに鳴いてゐました」と美しい文章がつづられています。ご遺族のご了解を得て近く発行の『平塚らいてうの会紀要』二号に収録する予定です。

『紀要』二号は「奥村博史特集」

―ぜひ読んでください！

今年の『紀要』は、昨年の展示で好評だった「らいてうと博史―愛と平和の五〇年」も取り入れた特集号です。話題は、らいてうのお孫さんがお二人そろって「祖父・祖母」についてお書きくださること。奥村直史さんからは晩年まで一緒に暮らした思い出を中心に、築添正生さんからは昨年大津でのご講演をもとにしたユニークな博史像を。これだけでも一見の価値あり！宝井琴桜さんはじめ楽しいエッセイもいっぱいです。そして2011年『青鞜百年』にむけて「海外の研究動向」を富田裕子さんが紹介。

盛りだくさん過ぎてページがあふれる？6月刊行予定。絶対買ってね！

なお、創刊号も高野悦子さんの講演をはじめ、新発見の資料紹介論文もあり、必見です。

頒価七〇〇円。まとまれば割引もあります。

やさしかった病室のらいてうさん

深町文子さんの思い出

上田にお住まいの深町文子さんは、1970年にらいてうさんが入院していた病院の、病棟つき看護師さんでした。以前ニュースでも紹介しましたが、3年前に退職してご夫君の故郷・上田に来られたのを機会に、あらためてお話をうかがいました。

＊　＊　＊

らいてうさんは3階の病室におられ、私はそこの担当だったのです。名札は「奥村明」でしたが、らいてうさんということは知っていました。抜けるような色白の肌で顔にしみ一つなく、「なんてきれいな方だろう」と思いましたね。品のいい「かわいいおばあちゃま」という感じでした。

それに、とても優しい方でした。そのころ私はまだ新米看護婦で、注射の時緊張するのですが、らいてうさんは「あなた注射がお上手ね。ちっとも痛くないわ」といってくださるのです。うれしかったですね。笑顔も素敵で、「闘士」とか「女史」というイメージとは正反対でした。声も低く、ゆっくり話されましたが、はっきり聞き取れました。

「手が小さかった」そうですが、確かに腕などは白くほっそりしていましたが、指は思いのほかふしが高く、「労働」をした手のように思いました。戦争中疎開先で畑仕事をされたそうですね。はっきり思い出せませんが、淡いピンクの珊瑚だったか石をはめた指輪もしておられたような気がします。亡くなった奥村博史さんの作品だったのでしょうね・・・。

ご家族といえば、ご子息の敦史さんご夫妻もよくみえました。お二人ともゆったり、ほのぼのという感じで、敦史さんはふわーっと人を包み込むような雰囲気でしたね。お父様の博史さんもこんな方だったのかしら、などと想像したものです。奥様の綾子さんも気さくな方で、ときどきご挨拶しました。

私が病棟にいたのは半年ほどで、らいてうさんが亡くなられたときにはほかへ移っていました。いま思うと、すごく穏やかな方なのに「こわいものがない」というか、思ったことは何でもやる人という印象でしたね。育った環境もあるかもしれませんが、私たちにはなかなかできないこともやってのけ、いつも満たされて生きてきた方ではないかと思いました。

人間、病気になるとどうしても暗くなりがちですが、らいてうさんにはそういうところがなく淡々と「死」に向き合い、「生死を越えた」静かさがありました。「老いてなおすばらしい」方でしたね。仕事上のわずかな時間でしたが、らいてうさんに接することができて幸運だったと思っています。上田に来たのを機会にらいてうさんの家のお手伝いもしたいと思います。

（米田・杉山記）

［事務局日誌］

12月22日　紀要編集委員会
1月12～13日　小林登美枝さん資料の整理作業
1月20日　記録映画を上映する会理事会に出席
1月21日　第4回常任理事会
2月4日　09年「家」特別展示の打合せ
2月9～10日　小林登美枝さん資料の整理作業
2月14日　米田会長、日本女子大学教育学科の会で「平塚らいてうと教育」講演
2月21日　事務局会議
2月22～23日　あずまや高原・スノーシューで雪の森を楽しむ旅
2月25日　第4回理事会
3月10日　「家」の今後を考えるプロジェクト会議
3月14日　らいてう講座「子どもたちの今、そして未来」開催
3月16～17日　小林登美枝さん資料の整理作業
3月17日　「らいてうの家運営委員会」（真田）

第10回通常総会のご案内

日時　2009年4月18日（土）
　　13時30分～
場所　平和と労働センター・全労連会館
　　3階会議室
審議事項　①08年度事業報告と決算報告
　　②09年度事業計画と予算（案）
　　③役員選出　ほか